

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名: 太田圭子

所属: 北海道森町立さわら小学校

記録日: 2022年 2月 10日

キーワード: コミュニケーション指導

【対象児の情報】

・学年

小学3年生の女兒

・障害名

自閉症スペクトラム

・障害と困難の内容

他者と言葉での意思の疎通が難しい。

・使用した機器に

Pad iPhone watch chromebook AIスピーカー Pepper

【活動目的】

・当初のねらい

○他の指導者や友達と簡単な言葉で意思の疎通ができるようにする。

①友達とのやりとりの中で児童の様子からわかることを即時的に指導者から添えることで、スムーズなやりとりを体験的に学習する。

②朝の会での日直や係の仕事などを通して話すことに慣れる。

・実施期間

2021年5月～2022年2月

・実施者

太田圭子(特別支援学級担任)

・実施者と対象児の関係

学級担任と在籍児童

(活動内容と対照時の変化)

・対象児の事前の状況

【文字や言葉の理解】

- ・平仮名、片仮名に興味をもち書くことができる。
- ・しりとりルールを覚え、一人でしりとりを続けることができるようになってきた。次の単語が思い浮かばない時には指導者にヒントや答えを求めていたが、周りを見渡したり、学習用具を探したりし、その中から単語を見つけるようになった。
- ・朝の会のスペースにある黒板の日にちや曜日に興味を示していたので、曜日や教科名(漢字)、漢数字を読む学習に取り組はじめた。
- ・文字を読む時に字をなぞって確認することがある。
- ・読み聞かせを続けているが、お話にはあまり興味を示さない。文の少ない絵本を何度か読み聞かせた時には、指差しをするなどの興味を示す。
- ・教師の言葉の指示は概ね理解できる。

【コミュニケーション】

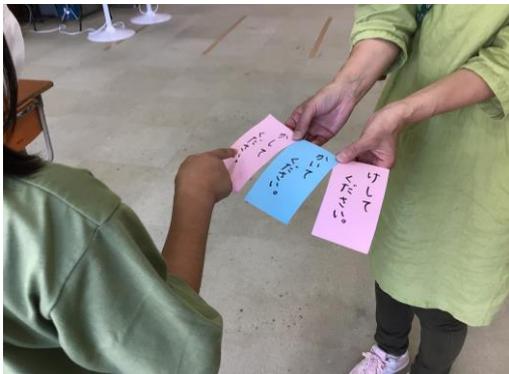
- ・身の回りのことはほとんど自分ででき、困った時には近くの大人にお願いすることができる。「やってください。」「手伝ってください。」と言うことができる。
- ・友達の持ち物などが気になり、近くでじっと見てしまうことがあった。
- ・見せてほしい時や知りたい時に、言葉ではなく指差しなどの行動だけで伝えてしまうことがある。興味をもったことを伝えたい時にも、指差しと「これ」で伝えようとしてしまうことが多い。
- ・支援級の友達には「貸してください。」とお願いすることができるが、返事を待たずに借りてしまうことが多い。
- ・友達からの「一緒に○○しよう。」という誘いには「はい。」「しない。」で答えることが多い。

【日直の様子】

- ・4月から日直(朝の会の司会、掃除の始めと終わりの挨拶など)を輪番で行っている。昨年度日直の仕事や立ち位置に興味を示していたが、輪番制ではなかったためできなかった。日直の日には日にちを書き換えたり、前に出て待っていたりと進んで仕事をしている。
- ・日直の言葉を用意してある一覧から、読むべき文を見つけることが難しかった。そこで、一覧を指差しながら司会の言葉を隣で担任がささやくと、まねをして言えることもあるが、そのまま止まってしまうこともある。もう一度ささやいた後「どうぞ。」や「話してください。」と付け加えると「どうぞ。」「話してください。」をまねしてしまうため日直として朝の会を進めることが難しかった。

・活動の具体的内容

- ① 本児が、イラストを描いてほしい時や色鉛筆を使わせてもらいたい時に『かいてください』『けしてください』『かしてください』のカードから選び読む。



毎日「これ」と紙を指さし、絵を描いてもらっていたので、「これ」や指差しての要求があった時に支援員が『かいてください』『けしてください』『かしてください』の3枚のカードを出すことにした。本児がその中から1枚を選ぶと支援員に「読んでください。」と言われるので、本児が声に出して読む。

1日に2~3回お願いすることがあり、「これ」や指差しの際には、また、支援員がカードを出し、本児が選んで読むことを繰り返した。

本児は、描いてもらった絵に色を塗って楽しんでいる。

・毎日繰り返される上記の場面にコミュニケーションをサポートするアプリを使えないかと考え「えこみゅ」をダウンロードした。本児と一緒に試してみようとする、表示されるカードの中に好みのカードがあり、そのカードを何度も押して音声を聞き楽しんでいた。実際の場面でするようになるまでに時間がかかりそうだと感じたこと、支援員にカードを出され本児が選ぶという人との交流も必要だと考え、上記のようにカードを使った取組をした。



- ② 朝の会での日直や係の仕事などを通して話すことに慣れる。



・日直・・・Keynote を使い言葉の提示をする。

(日直は前に出て朝の会を進める。出席健康観察や給食メニューの発表など、係が前に出てきて発表するときには、用意してある日直の椅子に座って待つ。)

日直の言葉を文節ごとに表示できるように作成した。児童のタブレットに AirDrop で送り、共有している。

操作しながら読む練習を国語の時間に3回ほど行った。その後、本児が日直の日には実際に操作しながら司会をしている。「これから」を「これで」と読んだり、「これで」を「これから」と読んだりすることがあり、国語の時間に何度か読む練習をした。



・係の仕事(健康観察しらべ)・・・Keynote を使い言葉の提示をする。



日直の言葉と同様に、練習を行なった。文節ごとに表示できるように作成し、本児のタブレットに AirDrop で送り、共有している。

5人目の児童の名前をいつも「(苗字)と(名前)さん」のように苗字と名前の間に「と」を付け加えてしまうので、苗字と名前をわけて表示している。分けて表示しても「と」を付け加えて言うことが続くので、文字をしっかりと見て読むように練習した。



・係の仕事(健康観察のカードを職員室へ配達)・・・Keynote を使い手順を確認する。



係を二人で行っているため、友達の話し方をまねたり、教えてもらったりしながらできるようになってきていた。

一人で届けに行かなければならないこともあるのでタブレットを持ちながら職員室へ行き、担任と一緒に確認した。

・対象児の事後の変化

- ① イラストを描いてもらいたい時に、カードがなくても「描いてください。」と話すようになった。
 - ・「描いてください。」とお願いすると「何をですか?」と聞かれるので、初めから「〇〇描いてください。」と描いてもらいたいキャラクターを言うようにもなった。
 - ・要求が伝わった時には、その後の行動が早くなり張りきった様子が見られた。
 - ・お願いした先生が、打ち合わせなどのためにすぐに描き始める様子がないと、「〇〇先生、描いてください。」と、繰り返しお願いすることや「〇〇先生、描きます。」と語尾を強めて描いてほしいという意思表示をすることもあった。

- ② 朝の会や係の仕事を一人で進められることが増えた。
 - ・タブレットを操作しながら日直や係の仕事を毎回続けた。言葉を覚えている個所もあり、タブレットの操作と言葉が連動していないところも出てきたので、単語ごとに表示していた2~3ページを1ページにまとめて表示したのを見ながら進める練習をした。
 - ・職員室への健康観察表の配達は、同じ係の友達をまねながらできるようになっていたので、時々keynote を使って話し方を練習した。
 - ・友達と一緒にではなくても、一人で配達できるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ・カードを使った取組をすることで、友達に声をかけることに慣れるとよいと考えていたが、カードがなくても友達に声をかけ誘おうとすることが増えた。
- ・簡単な言葉でのやり取りになってきている。日直や係の仕事を通して言葉をキャッチボールすることを体験し、コミュニケーションには相手の返答があるということの学習になったのではないかと感じた。
- ・支援学級の友達や、先生方に自分から話しかけることが増えてきた。

・エビデンス

- ・「〇〇行きたいです。いいですか。」などと先生方に尋ねるが、その答えを聞かずに行動してしまうことが多かった。今では、返答を聞き、その返答(O×)にあった行動をすることが増えた。
- ・お願いするときの言葉が詳しくなってきた。言葉が足りずに伝わらなかった時、相手からの質問を受け、短い言葉だがきちんと答えることが増えた。
- ・タブレットを持っていき、友達に「靴下、写真撮っていいですか。」と聞いてから写真を撮らせてもらうことができた。
- ・職員室への配達が一人でできるようになった。健康観察を届けることのほかに、クラスで集めたプリントなども届けることができた。
- ・「〇〇先生。」と声をかけ「なあに。」という返事を聞いて「呼んだだけ。」と言い、相手の反応を楽しむこともあった。